○村上智行委員長　続いて、二十一世紀クラブの質疑を行います。
なお、質疑時間は答弁を含めて五分です。阿部眞喜委員。
○阿部眞喜委員　二十一世紀クラブの阿部眞喜でございます。
　高校教育改革推進事業について、いま一度御説明をしていただければと思います。
よろしくお願いします。
○小野寺邦貢教育委員会教育長　今回の補正の主な概要でございますが、国の高等学校等教育改革促進事業の考え方にのっとりまして、国に申請した事業内容のうち、今年度実施分で当初予算に計上されていないものを追加で計上したということでございます。
大きく分けますと、工業高校、仙台一高、そしてオンライン教育センターの三つの拠点におきまして、今後先導的な取組を進めるに当たりまして、必要となる施設整備や通信機器整備、こういったものに要する経費でございます。まず一つ目の工業高校分といたしましては、県内のほかの工業高校と連携して取り組むためのインターネット上の仮想空間を構築いたしますとともに、その運用に必要な校内ＬＡＮの高速化に要する経費など、五千八百万円を計上しております。二つ目の仙台一高分といたしましては、協力校の生徒が同校に集まりまして、実験や意見交換などを共同で行う場所を整備するための改修設計費のほか、実験等に用います機器の導入に要する経費など、五千四百二十二万六千円を計上しております。更に三つ目のオンライン教育センター分といたしましては、遠隔授業の配信や受信に必要な機器整備のほか、仙台二高の敷地内にございます既存施設を、オンライン教育センターとして改修するための経費など、千九百七十七万四千円を計上しております。こういったものを合わせまして九月補正予算におきましては、一億三千二百万円を計上したところでございます。
○阿部眞喜委員　オンラインの仮想空間ということですが、メタバースのことを言ってらっしゃるのかなと思いました。私も選挙の政策でメタバースを活用した政策・教育ということを掲げておりました。それはなぜかというと不登校児などのコミュニケーションをとれる場所とか、また学校に行ってみたいなと思うように、そういう仲間たちが少しでも同じ環境の人がいるのだというようなことが分かれば、より一層、一人にさせることがないのではないかとか、または、海外の学校と多文化の交流の一環としても活用できるのではないかと、主に政策に掲げていたのですが、今の話を聞くと県内の工業高

校との連携ということなのかと思いますが、そこで、ぜひ教育委員会として、宮城県としてメタバースを活用することで期待していることがあれば教えていただけますでしょうか。

○小野寺邦貢教育委員会教育長　メタバースにつきましては、この事業では工業高校におきまして導入することとしております。実際の工場と同じ環境をインターネット上に再現した仮想空間をつくりまして、組立て作業や産業用ロボットの操作などを生徒が現実さながらに体験学習することで、より実態に即した学びを実現しようとするものでございます。こうした仮想空間の中では、自動車の解体や半導体製造工程の実習などで、自由自在に設定を変えたり、肉眼では見えないレベルでの観察ができます。インターネットで国内外の企業や工業高校などともつなぎまして共同実習を行うこともできます。県教育委員会といたしましては、このような取組を通じまして、工業高校の学びをアップデートし、実際の企業活動に結びつく学びを展開することにより、先端技術を扱う能力と確かな基礎を兼ね備え、産業構造や企業の変化に対応することができる人材の育成につながるものと期待しているところでございます。

○阿部眞喜委員　お話を聞くだけでも非常に面白いなと思いました。そこで最後に聞きたいのですが、それは、今ある、既存のものに混ざるのか、それとも宮城県独自に今からつくるのかということだけお答えをお願いします。

○小野寺邦貢教育委員会教育長　これからいろいろ意見交換をしながら内容を固めていくのですが、やはり既存の使える技術はどんどん取り入れて、それにプラスアルファでこんなことがあったらいいなという意見を出し合いまして、本当にそれが予算の範囲内でできるのだったら、ぜひそういったところまで踏み込んでつくっていきたいと考えております。